



旅人

旅人は言った。

「異世界なんて存在しない」と。

旅人の前には色とりどりの旗が窓から窓へ飾られた世界があった。

どのようにこの世界が作られたのか全く想像できない。

足を踏み出せば落ちてしまうのだろうか。

未知の世界へと。

眼下に広がる世界を眺め旅人は思う。

「異世界なんて存在しないのだ」

腰に下げた剣を握り締め、旅人はその世界へ飛び立った。

そして知ることになるのだ。

「これが異世界なのか」と。

旅人は終わりの見えないコンクリートの道を歩き続ける。

ただ一つの光を求めて。